

城西3D～できる時・できる人が・できる力で～

発表者 城西小学校PTA(田中雅治・牧野正之・亀山利江・堀美奈子・加藤真実・服部智美)

1. はじめに

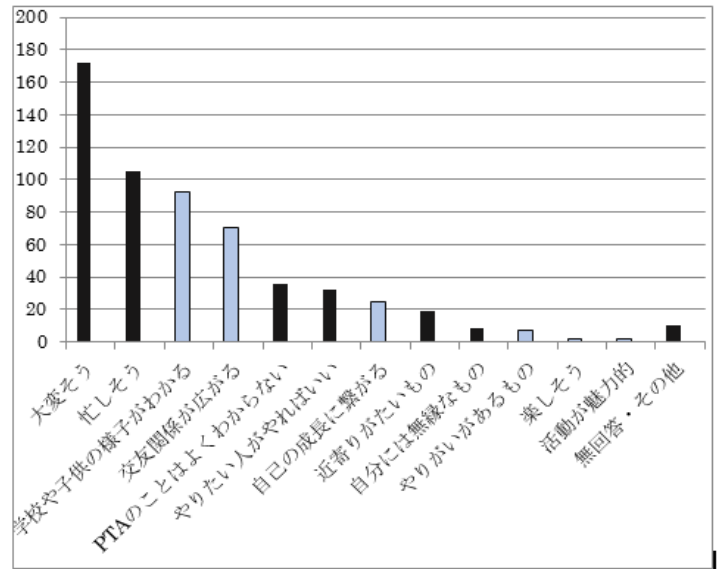
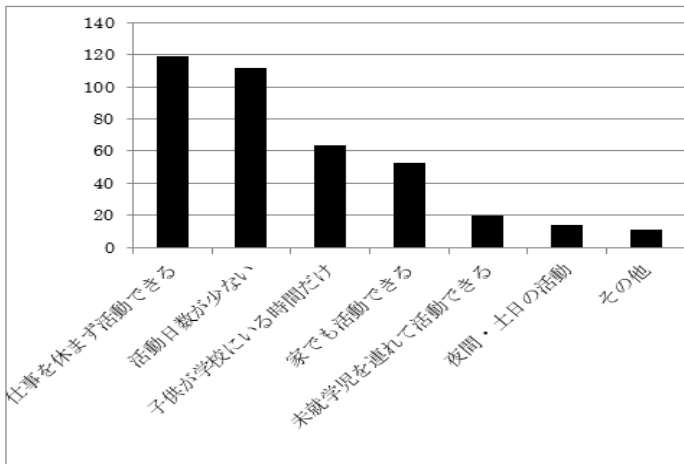
城西小学校は、1971年に島小学校から分離する形で開校した、創立44年目を迎える比較的新しい学校です。一時期は児童数が1100人を超えていましたが、現在は年度初め時点で376人まで減少しています。実践発表の指定を受けたことをきっかけに、これまでの活動を振り返りながら、今後、どうあるべきかを考えるアンケート調査を行いました。その中で生まれた、多くの人たちが活動にかかわれる仕掛け「城西3D～できる時・できる人が・できる力で～」について報告します。

2. アンケート結果から

まず、PTA役員に対するイメージですが、「大変そう」「忙しそう」が否定的な意見の大多数を占め、肯定的な意見としては「学校や子どもの様子が分かる」などがありました。しかし世帯の半数以上が共働きで、勤務時間帯や休日もそれぞれのため、作業や打ち合わせの時間が合わせにくいという現状もありました。

「そもそもPTAはあるのか」という厳しい意見も出ましたが、PTAは学校と子ども、保護者をつなぐ架け橋であり、子どもが豊かな学校生活を送れるよう、親が力を尽くすことが大切と考えました。

3. どのような形なら参加できるか(3D活動のイメージ)



イメージ

どう実践させていけばいいか。たとえ活動当日に参加できなくても、準備を含め、皆が参加できるよう環境を整えることを大事とします。例えば、打ち合わせに夜間しか時間がなければ、公民館を借りて子どもは自主勉強を、親は打ち合わせや作業をすとか、時間がなくてもパソコンができる人には在宅で文書を作成、時間の取れる人は印刷や配布作業を担うというイメージです。役員それぞれができる時に・できる人が・できるスキルで取り組む「おすそ分け」の精神を持つことです。

4. 城西3Dは誰のため？

「忙しいから」「時間がないから」で活動を減らすことは簡単です。でも活動が減れば、子どもの体験や学び、育ちの機会を減らすことになります。学校教育の現場に保護者もかかわることで、現場が抱える問題点を見つけ、ともに改善していけば、それは子どもの教育環境向上につながります。また、行事を通して親は子のために汗をかき、その姿を子に見せる必要があります。PTA活動は、親子の絆を深めるだけでなく、親同士のつながりや親力(おやりよく)、子どもを見守る温かい地域づくりにつながる道へとなります。